

## 第1回中国交歓大会・その1

(6号:2010年9月10日)

昭和54年9月、山口県ミニバスケットボール連盟が誕生し、県内の組織化が出来上がります。それとともに益々ミニバスが盛んになっていきました。

お隣の広島県では、昭和51年(1976年)から全関西ミニバス交歓会が始まっており、西日本各地からたくさんのチームが集まっていました。山口県からも数年前からこの全関西に参加をしていて、夜には指導者の交流会も盛んでした。(余談ですが、指導者の交流とは要するに指導者同士が酒を飲みながら熱いミニバス談議を交わす場でした。)この中で、中国5県の交歓会(中国ミニバス交歓会)をつくらなければならない、中国ミニバス連盟をつくらなければならないなどの話も頻繁に出ておりました。

そのような流れを受けて、県内でもまず山口県から中国ミニバス交歓会をやろうという機運が起こり、県ミニ連設立の時と同じような雰囲気になってきたのです。つまり、誰かがいつかやってくれるだろうという他力本願的な考えではいけない、必要なら自分たちで行動を起こすべきだとなったのです。

そして記念すべき第1回中国ミニバス交歓会が昭和56年(1981年)12月26・27日、下関市で開催されることとなるのです。

なぜ下関市でと思われる方もおられると思います。その前年、人事異動で私は現在の周南市から下関市に異動となっており、当時の理事長から「お前のところでやれ!!」と指示を受けたのです。下関市では数年前からミニバスが芽生えており、ちょうど大きく発展していく時期にかかっていたのです。つまり、熱心な指導者がたくさんいたのです。

さっそく実行委員会が組織され、大会に向けての準備が始まりました。第1回大会ですので、何もモデルがありません。その前に、大会にふさわしい会場そのものがありませんでした。これは私のモットーでもあります、「何事も、知恵と工夫と心がけ」という心意気で臨んだのを覚えています。

さて、第1回大会をどうするか、下記のような事項をみんなで共通認識しました。

試合会場をなるべく近づける。メインを下関市体育館とし、徒歩5分以内の場所に他の会場を確保する。(結果、近くの高校と小学校となりました。高校の会場はリングの高さが問題で、つり下げ式のリングを取り付けました。その他にも会場のことで気になることがありましたが、次の機会に書きます。)

交歓会を盛り上げる。これはゲームのことではありません。選手一同が集まったの交歓会です。そのためにも、全チームが同じ場所に宿泊することが前提となりました。これだけはとてすばらしいものであったのではないかと今でも思っています。市内に修学旅行専用の大型宿泊施設があり、何百人でも泊まれ、大宴会もできるというステージ付きのパーティホールがあったのです。おまけに、冬休みのこの時期、格安で利用できるということで我々実行委員一同大喜びでした。中国ミニバス交歓会(開閉会式からゲーム、夜の交歓会まで)の運営をなるべく子どもたちにさせていく。また、交歓会では各チームの子どもたちの出番を多くし、楽しい会にする。要は子どもたち中心の交歓会をしていこうということを確認しました。

中国ミニバス連盟設立につなげる。このことは、大会要項にも次のように記されています。「代表者会議を行い、その場で中国ミニバスケットボール連盟を設立させる予定」しかし、第1回大会では連盟設立には至りませんでした。